

排水対策を徹底して出芽・ 苗立ちを確保しましょう

長岡農業普及指導センター

大豆情報 No. 1

代表電話：0258-38-2554

E-mail : ngt111440@pref.niigata.lg.jp

令和5年度目標

収量：220kg/10a 品質：2等級以上

(特定加工用大豆合格以上)

1. 排水対策

～最も大切な技術です！～

- (1) 排水対策は、大豆作に好適なほ場条件を確保するための基本であり、最も大切な作業です。
- (2) 弾丸暗きよや周囲明きよは、早期に施工しましょう。
 - ・周囲明きよの深さは、30～40cmを確保しましょう。
 - ・排水口は明きよより掘り下げましょう。
 - ・周囲明きよは排水口に必ず連結しましょう。
- (3) 大雨等の前後にはほ場を点検し、明きよの崩れた箇所を直しましょう。



排水口

2. 基肥

～初期生育の確保で収量増をねらいましょう～

窒素成分は、根粒菌が働くまで（は種後30～40日）のつなぎとして重要です。基肥は下表をめやすに施用しましょう。

水田転換畑の土壌pHは、土質や石灰質資材の施用履歴によって異なるものの、概ね5.1～5.5の範囲です。大豆栽培の目標pH6.0～6.5に改善するため、石灰質資材を必ず散布しましょう。

	成分量 (10a 当たり)	肥料例 (施用量 (10a 当たり))
窒素	1.5～2.5 kg	ニュー大豆 800 (20～30 kg)
リン酸	6.0～8.0 kg	有機入り大豆配合 2号 (20～30 kg)
カリ	6.0～8.0 kg	ワンタッチ大豆 (全量基肥 40kg)
石灰	pH 目標値 6.0～6.5	マグクリーン (60～80kg)

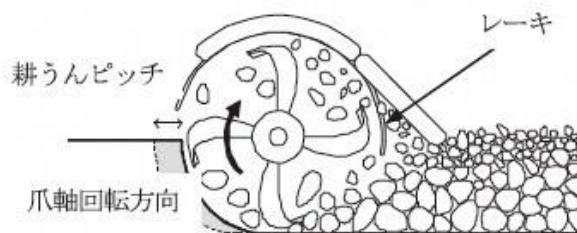
3. 耕うん・砕土

～砕土率の目標は70%以上です～

(1) 耕うん・砕土は丁寧に行いましょう。砕土が不十分だと出芽揃いが悪くなるだけでなく、除草剤の効果が低下します。

(2) 砕土率（2cm以下の土塊の重量割合）70%以上が目標です。

- ・排水対策により、ほ場を十分に乾かしてから作業しましょう。
- ・作業速度を遅くして、土塊が細くなるように作業しましょう。2回以上耕うんする場合、特に1回目を丁寧に作業しましょう（1回目が粗いと、それ以上砕土率は向上しません）。
- ・アップカット（逆転）ロータリーを用いましょう（表層に細かい土塊が集まる）。



アップカットロータリーによる耕うん

4. は種

～適期は種で生育量を確保～

(1) 紫斑病・アブラムシ類対策として、塗沫処理による種子消毒を必ず実施しましょう。

(2) 畝立ては種は、湿害の回避に有効で苗立数が安定します（畝の高さは10cmが目安）。

(3) は種時期に応じては種量を調整し、適正苗立数を確保しましょう。

- ・は種時期が遅くなるほど、は種量を多くしましょう。
- ・は種深は表面から3～4cm程度とし、ほ場が乾燥気味の場合はやや深めに、土壌水分が高い場合はやや浅めにしましょう。

【畝立ては種のみ安】

	は種時期	目標苗立数	は種量※
エンレイ（単作）	5/25～6/10	10本/m ²	4.0 kg/10a
エンレイ（麦跡）	6/20頃	18本/m ²	7.2 kg/10a
里のほほえみ	6/1～6/15	9～18本/m ²	4.0～8.0 kg/10a

※苗立率85%、百粒重：エンレイ34g、里のほほえみ38gとして算出

【平まきの目安】畝立ては種に比べて、は種量を1割程度多くしましょう。

5. 除草剤は適正に使用しましょう

土壌処理除草剤は、は種後すぐに散布しましょう。

<農薬使用の注意事項>

- 農薬を使用する際は使用方法、注意事項を必ず確認し、自己の責任において使用する。
- 農薬散布時は周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意する。
- 農薬使用後は使用農薬、濃度、使用量を防除履歴として記録、保管する。

春の農作業安全運動実施中（令和5年4月1日～5月31日まで）

「慣れてても、手順確認、事故防止」